

◆◆◆教材の概要◆◆◆

ロベータは、ステージに立つ夢をもつ俳優志望だが、養成所に通う余裕がないため、窓の外に聞こえてくる練習の様子を盗み聞きながら、自分で練習を続けていた。守衛のジョルジュじいさんは、そんなロベータを、温かく見守ってくれていた。ある日、ロベータのもとに「おくりもの（養成所の学費）」が届けられるようになる。しかし、ロベータが、養成所での練習が始まり、周りからも実力を認められようになった頃、「おくりもの」が届かなくなり、通うことができなくなってしまふ。そんなとき、ロベータは、「おくりもの」は、ジョルジュじいさんからだったことに気付くが、じいさんは病に倒れてしまふ。ロベータは、身寄りのないじいさんを自分が看病することに決めるが、じいさんは亡くなってしまう。ロベータは、ジョルジュじいさんが最後に書いた手紙を読み返して、じいさんの「思いやり」の心に触れ、何かを決意したかのように遠くに視線を移した。

◆◆◆教材の活用◆◆◆

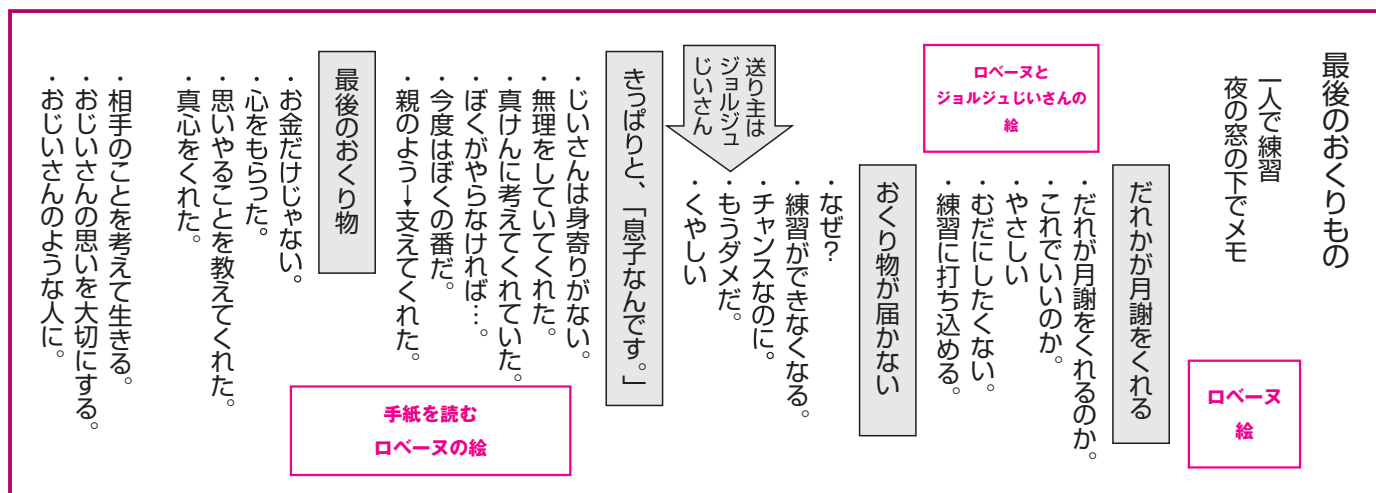
人は時に自分の思い通りにならないと苛立ち、自分自身が努力することを忘れてしまったり、他人のせいになじたりすることがある。また、自分の夢に向かって順風満帆の人生を歩んでいるときは、その陰で支えてくれている人の存在に気付かず、有頂天になってしまうことも少なくない。

本教材は、優しい気持ちに後押しされて頑張ろうとする主人公が、実は自分のこと最優先に考えてもらっていたことに気づき、真の思いやりを自分に向けてくれていた人の心に触れ、他人を思いやる生き方をしようとする内容である。恩人の命と引き替えに、そのことに気付く主人公が、本当の優しさに触れ心を動かされる姿を通して、自分の困難を乗り越えて相手を思いやる心の深さについて考えさせる点を大切に授業を展望したい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

ジョルジュじいさんの「最後のおくり物」って何だったのだろう。

◆◆◆板書計画◆◆◆



◆◆◆道徳的価値 “思いやりの心” について◆◆◆

よい人間関係を築くには、相手に対する思いやりが不可欠である。思いやりとは、相手の立場を推し量り、自分の思いを相手に向けることである。そして、それは具体的には温かく見守り接することや、相手の立場に立った励ましや援助などを含む親切な行為などとして表れることが期待される。特に学校においては、多様な人との直接的な関わり合いの機会を多くし、人間愛を根底とした思いやりや親切な行為の意義を実感できる機会をつくっていくことが大切である。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

ジョルジュじいさんの思いに気付くロベエヌの気持ちを考えることを通して、相手の立場に立った思いやりある行動の意味を考えて行動しようとする道徳的心情を豊かにする。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	・教材について知る。	「思い」は見えるかな。見えないかな。 ・見える、見えない。 ・行動することで見える。 ・心の中は見えない。	・児童の「言葉」に対するイメージを膨らませる。 ・価値への導入と位置づける。
展開	・教材を読む。		・話の筋が理解できるように範読する。 ・出来事を簡単に整理しながら挿絵等でポイントを押さえる。
	・悔しくなるロベエヌの気持ちを考える。	くちびるをかんだロベエヌは、どんな気持ちだったでしょう。 ・なぜ学費をくれないのか ・せっかく認められてきたのに。 ・チャンスがなくなってしまう。 ・どうしよう、もうダメだ。	・児童の発言について、そう思った理由や根拠を明らかにする。 ・自分の都合ばかり考えるロベエヌの考えに気付かせる。 ・価値を追求する観点で、なぜそう思ったのか補助発問を通してじっくりと深めさせる。
	・初めてじいさんの立場に立ったロベエヌの気持ちを考える。	きっぱりと「息子なんです。」と言ったロベエヌは、どんなことを思っていたでしょう。 ・ぼくのために無理をしたのか。 ・ありがとう。感謝しています。 ・今度はぼくがお返しをする番だ。 ・じいさんは身寄りがない。 ・ぼくがやらなければ…。 ・親のようにぼくを支えてくれていたんだ。	・無理をしてまで学費を工面しようとしていたじいさんの行動を押さえながら、じいさんの思いやりの深さを感じ、それに応えようとするロベエヌの姿に気付かせる。
	・手紙を読んだロベエヌの気持ちを考える。	手紙を読んで、ロベエヌはどんなことを考えたのだろう。 ・じいさんありがとう。 ・本当の思いやりを知った。 ・相手のことを考えて生きていく。 ・じいさんの思いを大切にする。 ・じいさんのような人になるよ。 ・立派な役者になるよ。 ・じいさんの夢をかなえるよ。	・死を目の前にしてもなお自分に思いを寄せるじいさんの心に触れたロベエヌの気持ちを考えさせる。
終末	・価値について考えを深める。	ジョルジュじいさんの「最後のおくり物」って何だったのだろう。 ・もらったのはお金だけじゃない。 ・心をもらった。 ・じいさんの心が届いた。 ・ぼくのことをよく考えてくれた。 ・相手を思いやることを教えてくれた。 ・自分の命を削ってぼくに真心をくれた。	・相手の立場に立って、自分のできる限りの「思いやりの心」をくれたじいさんの心について考えさせる。 ・「思いやりの心」に視点をあて、考えを深めさせる。
	・本時の学習を振り返る。	・相手を思いやるという意味が分かった。 ・相手の立場に立って考える事が大切だと感じた。	・学習を振り返り、感じたことや考えたことをワークシートに書かせる。 ・意見を交流させて、出会った道徳的価値の深化を図る。

評価の視点（例）

- “相手の立場に立って思いやる”ということの意味について、自分自身のことを振り返りながら考えている発言や記述がある。